

教育委員会会議録

令和5年(2023年)第5回臨時教育委員会会議

開 会 日	令和5年(2023年)7月26日(水)	
開 会 時 間	午前9時00分 ~ 12時00分	
開 会 場 所	教育センター 4階 大研修室	
出 席 者	委員 会	遠藤洋路 教育長 出川聖尚子 委員 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 澤栄美 委員
	事務 局	田口清行 教育次長 須佐美徹 学校教育部長 他
協 議	令和6年度(2024年度)使用小学校教科用図書の採択について (社会・理科・音楽・保健)	
署 名	西山忠男	
	遠藤洋路	
会議録作成者	教育センター 廣瀬文子	

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、これより令和5年度第5回臨時教育委員会会議を開会いたします。</p>
<p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>本日は、教育長・教育委員5人が出席しているため、この会議は成立しております。 会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、会議規則第14条第2項の規定により、西山委員と遠藤とします。</p>
<p>日程第1 協議</p>	
<p>・協議1 令和6年度(2024年度)使用小学校教科用図書採択について(社会・理科・音楽・保健・外国語)</p>	
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>苫野委員においては、今回の採択に関わる発行者の小学校教科用図書の編集委員をしておられます。それを受けて教育委員会会議で協議した結果、教科書採択における公正性・透明性を確保するため、苫野委員は、教科用図書の採択の協議及び議事に参加しないことを確認し、欠席しています。 それでは、協議1 令和6年度(2024年度)使用小学校教科用図書の採択について事務局より説明をお願いします。</p>
<p>澤田伸一 事務局長</p>	<p>協議1 について説明します。令和6年度から小学校で使用する教科書全13種目の採択をお願いします。本日は、そのうち「社会」「理科」「音楽」「保健」「外国語」の5種目についてご協議をお願いします。 まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>まず、「社会」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。</p>
<p>平川純哉 研究記録員</p>	<p>説明</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。</p>
<p>澤田伸一 事務局長</p>	<p>説明</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議に入ります。委員の皆様からご意見・ご質問はありませんか。西山委員。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>今日は社会保障を中心にご説明がありましたけど、私は歴史に関する記述で比較してみました。特に日本の歴史において重要な転換期となったキリスト教伝来についての記述なんですけど、結論から言うと教育出版が一番優れていると思いました。それは141頁のところに天正遣欧使節のことも書いてあるというようなことなんですけど、東書はそのあたりの記述がちょっと簡単過ぎるように感じました。 また、日本文教出版は、131頁に天正遣欧少年使節について、帰国したと</p>

	<p>きには秀吉がキリスト教を禁止していたため、祖国の地を踏むことはできませんでしたと書いているんですけど、144頁を読むと、江戸幕府はキリスト教信者の勢力を含め大名が幕府に従わなくなることを恐れ、キリスト教を禁止しましたというふうに書いてあって、生徒が混乱すると思います。秀吉は1587年にバテレン追放令を発しましたけど、キリスト教の信仰そのものを厳しく禁じたわけではなかったんですね。そのあたりの事情がこれでは分からない、完全に混乱するというふうに思いました。</p> <p>この1点だけでどうのこうのというわけではありませんけど、全体的に見て歴史、日本文教はもう少し工夫が必要ではないかと思いました。総合的に見たら教育出版が一番よいと思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>小屋松委員。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>まず、目次の部分の3社を比較してみましたけど、この中でいきますと、教育出版が一番丁寧に捉えてあるなという感じがいたしました。社会科の学習を広げる、これはタブレット型のコンピュータを生かそうという言葉が示され、そして社会科で使う見方、考え方、それから学習の進め方というふうに非常に丁寧に導入部分がつくってありますので、生徒たちはここから入っていくには非常に社会科の学び方というのが分かりやすいかなという点で、教育出版が一番3社の中では優れていたかなというふうに思いました。</p> <p>それともう一点は、学習がつながる部分で、これもやはり流れとしては、つかむ、調べる、まとめる、そしてつなげるというこの4つのサイクルが非常に丁寧にされているなという感じがしたのもやっぱり教育出版だったかなというふうに思いました。</p> <p>一見、歴史に関してのことが全く触れられていませんでしたけど、質問としては、この歴史の部分について3社の特徴的なことがあればそれを聞いてみたいなというのと、あと個人的な意見としましては、日本文教出版の自分の歴史の年表を作ってみようというのがありますけど、これは非常に面白いなと、取組としては、まだ生徒たちですから、数的にはそんなにたっているわけではありませんけど、今現在の自分の年表を作ってみることによって、個人個人のそれぞれの歴史があるんだということの気づきを通して歴史の勉強を身近に感じることができるのではないかなと思いましたので、この日本文教出版の年表については、非常に私は評価をしております。以上です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>今のに、コメントはありますか。お願いします。</p>
<p>石原 将 研究員代表</p>	<p>歴史のところなんですけど、それぞれ各社特徴がありますので、その点については記録員の方からご説明を申し上げます。</p>
<p>平川純哉 研究記録員</p>	<p>歴史の全体的なところについてですけど、一つ、例としては、どのような人物が扱われているかということを調査いたしました。42人の歴史上の人物は必ず必修ということですけど、それ以外にどういう人物が扱われてい</p>

	<p>るかというところで洗い出したところ、少し傾向が見られました。</p> <p>こちらは古代の分ですけど、東京書籍は古代に出てくる歴史上の人物というのが他の2社に比べて多うございました。中世ですけど、少しそれぞれ扱いに差があるというところで、特に先ほど西山委員のご指摘のように、天正遣欧使節、バリニャーノ、伊東マンショあたりがコラム辺りで紹介されているというところが特徴でした。</p> <p>こちらは近世で、あと近現代も少し差がありまして、近現代になると教育出版、文教出版が少し出てきている人物が多く扱われています。教育出版のほうでありますと、右側真ん中辺り、杉原千畝とか、そういった人物、外交官が扱われておりますし、文教出版になればどちらかと言えば政治家、山本五十六、マッカーサーあたりが出てくる。それからノーベル賞受賞者、東京書籍は吉野彰さんお一人、教育出版は山中伸弥さんお一人ですけど、日本文教出版は全員の一応お名前が挙がっているという、そういう違いが一つの傾向としてありました。</p> <p>それから最後の年表等の記述ですけど、日本文教出版は、今回、SDGsのシールを貼るとか、そういう記述をすると、子供がその教科書を使って直接記入する、それからシールを貼るなどの活動ができるような工夫が見られます。特にそれをどこかの観点で評価したというところまではありませんけど、話題としてはそういう子供たちの参加を促すような工夫が見られるということは研究員からも上がったところです。</p> <p>以上です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>小屋松委員、よろしかったですか。</p> <p>他の委員から。出川委員、どうぞ。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>私は戦争のところを、第2次世界大戦の暮らしのところを見たんですが、教育出版は子供たちと戦争というところと、東京書籍は戦時中の子供たちの生活ということで写真を組んで取り上げてありました、紙面を使って。そして日本文教出版のほうは、写真があってデジタルコンテンツか何かで写真のところそういうものがあつたんですけど、もしかして日本文教出版のところもそういう子供たちと戦争を結びつけて学ぶようなものもあるのかもしれないので、デジタルコンテンツの状況について教えていただければというふうに思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>お願いします。</p>
<p>石原 将 研究員代表</p>	<p>デジタルコンテンツなんですけど、その前に先ほどの説明の中にもありましたが、資料の中に使われている写真が教育出版はAIの技術でカラー処理を施してある写真がたくさん使ってあるというのが特徴で挙がっています。デジタルコンテンツに関しては、2次元コードを使ってというところがありますので、その部分を含めては記録員のほうが補足説明を行います。</p>
<p>平川純哉 研究記録員</p>	<p>日本文教出版の戦争のところの2次元コードの活用についてですけど、205ページに幾つかあります。こちらは子供のほうがタブレット等でかざすと当時の、この写真に関するちょっとした動画が出てくるような仕組みになっております。そんなようなのが1分程度の様子が少し動画で見えると</p>

<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>というようなものです。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それぞれそういうふうに取り上げられているかと思うんですが、例えば教育出版や東京書籍のように紙面を使って、2ページぐらい使って戦争と子供というのを示していることに何か意味というか、教えるときにどういうふうの違いがあるのか教えてください。写真だけとそういう紙面があることについて何かあれば教えてください。</p>
<p>石原 将 研究員代表</p>	<p>戦争に関しましては、ひとつお断りしておきたいんですけど、政治信条にちょっと関わるところがあります。基本的にはいろんな皆さんの関心が高いところだろうと思っています。その点で評価の方には加えてありませんというところはお断りしておきます。</p> <p>私たちが戦争について学習するときに、子供たちに今の日本が平和な社会をつくっているというところで学習をしていきます。まず、例えば東京オリンピックの聖火のランナーは、広島でそのときに生まれたお子さんが代表として聖火ランナーをされたとか、つまり私たちの生活を通して平和をつくっていったということで、私たちが今つくられているこの世の中を見るという形で学習をしていきます。</p> <p>子供たちは、戦争を過去のものという形ではなくて学習していきます。当時の生活とか、そういうところも含めて、子供たちが今の生活を振り返る「もと」という形で授業というのは展開されていきますので、あとはとにかく教科書を証拠資料等として使いながら、当時の様子とか、そういうものも分かりながら学習していく形になると思います。</p> <p>補足は記録員のほうからまた説明を行います。</p>
<p>平川純哉 研究記録員</p>	<p>やはりこの学習で当時の日本の、特に子供たちがどういう生活していたかというのは子供たちも関心が高いところですので、写真を見ているような気づきを出し合うというのは学習の中で十分想定されます。</p> <p>また、あと考えられるのは、この単元は6年生であると平和学習とか、修学旅行等とかとも関連するところですので、これを取りかかりとして、じゃあ、長崎はどうだったのかとか、熊本どうだったのかという少し教科書を離れてさらに詳しい調べ学習等に入る場合もあります。そういった活用のきっかけとして写真資料が使われることが多うございます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>出川委員、よろしかったですか。</p> <p>澤委員、お願いします。</p>
<p>澤栄美 委員</p>	<p>今、戦争の部分のところでのお話もありましたけど、これからいろんなデジタルコンテンツを使うというのは、1人1台iPadが配られていますので、かなり学習の中で必要なこととなっていくと思うんです。補充・発展の部分になるかと思いますが、そういった意味で今後デジタルコンテンツを使っていくという全体を通してその部分の評価というのはどんなふうにするかについて見られたかというのを教えていただきたいと思います。</p> <p>それともう一点は、評価の と の一覧の中で、たしか東京書籍だけが人権のところか ということで、どうしてかなというのが気になりましたので、そこも教えていただきたいというふうに思います。</p>

<p>石原 将 研究員代表</p>	<p>では、まず最初にデジタルコンテンツについてです。3社とも活用を促す工夫というのがとても見られました。特に東京書籍は自社制作の動画が多かったです。働く人へのインタビューとか、また詳しくは記録員がご説明をします。その後、人権についてのお答えをしたいと思います。</p>
<p>平川純哉 研究記録員</p>	<p>各社デジタルコンテンツは充実していると思います。各社ともワークシートが出てくるというものが多かったです。研究員の研究調査としては、特に先ほど石原校長からもありましたが、東京書籍がそういうインタビュー動画とかの動画コンテンツが少し多かったという点で、補充学習というところでの評価が一つの理由にしております。ただ教育出版は、割とまとめの学習に図にまとめるような活動が多々ございます。それは教科書紙面では付箋を使ってまとめましょうというような学習が多いのですが、その付箋というのはタブレット等での一つのアプリを使った学習というのを想定してつくられているものと思われれます。ただし、そちらは直接的には評価には加えておりません。そういう違いが各社の特徴として見られました。</p> <p>人権については、まず校長から。</p>
<p>石原 将 研究員代表</p>	<p>では、続いて人権についてです。</p> <p>人権については、いろんな人権課題があるということで、様々な視点から検討しました。検討したことを総合的に判断して東京書籍だけがということになりました。詳しくは記録員のほうから説明を申し上げます。</p>
<p>平川純哉 研究記録員</p>	<p>人権については、大きく4つほど視点を設けて調査を行っております。</p> <p>まず、これは県の方から示されている15の熊本の人権課題、これについての扱いがあるかという、見づらんですが、この表で何種類、何項目扱われているかということを洗い出しました。教育出版と日本文教出版は121、東京書籍は77、若干差が見られました。</p> <p>それから次に扱われているキャラクターについてですが、東京書籍はこのような子供たちのキャラクターが使われています。教育出版はこのようなキャラクターが使われています。日本文教出版はこのように使われています。多様性ということ、共生社会ということで教育出版を少し評価しております。</p> <p>ユニバーサルデザインに関しては、どちらもしっかり配慮したつくりになっています。地図とか、資料の見方、見やすい工夫がされています。</p> <p>もう一つ、歴史の分野、身分制度のところでの記述がどうなっているかを見ました。東京書籍は本文とは別の別枠、黒い囲みのところ、これは私のほうで囲んでいるところですが、そこに厳しく差別されてきた人々ということで記述があります。教育出版は本文の中でありまして、右側が差別された人々の記述、それと左側に上下関係、身分制度が男女差別にもつながっているということの記述がありました。日本文教出版も本文での記述、さらに先ほど教育出版のようにこれが男女の差別にも少しつながっているというような記述が見られました。ということで、少しそういう詳しい本文での扱い、さらには詳しくその後の身分制度の変化にも記述があるということで、教育出版、日本文教出版を評価し、総合的に判断して東京書籍は、2社は という判断です。</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>よろしいですか。 他にご意見ありますか。 なければ、私からも一つ質問をお願いします。 説明の中で私もそうだなと思った点は、東京書籍の付箋2の部分で、さいたま市の話で今後力を入れて取り組んでほしいと答えた取組で、公共交通とか、防災とか、高齢者福祉とかのいろんな意見があるんですけど、子育て支援についてだけその後ずっと取り上げられていて、他のテーマについて、他の課題について気づきや思いを抱いた児童の思いに応えていないんじゃないかという指摘があったかと思います。それはそのとおりだと思ったんですけど、逆に言えばどういうふうにすればそれがよく工夫されているというふうに評価されるのか。あるいは他の教科書、他の会社の教科書ではどこができていてからそういう問題点がないのかというその辺の比較が分かるといいなと思ったんですけど、教えていただけますか。</p>
<p>石原 将 研究員代表</p>	<p>子供たちが疑問をもつというのは、資料等でいろんな視点からもつと思います。例えば先ほど子育て支援の問題もありましたし、子供たちが切実なのは遊び場の問題とか、また、学校施設とか、いろんなところに課題を持つと思います。教科書の中では、そういう資料を基に学習問題というふうに設定をされています。 例えば東京書籍では、学習問題として、子ども家庭総合センターがつくられるまでにとこのような形で学習問題が設定されています。この学習問題の設定が違い、それぞれ各社に特徴があります。その学習問題を子供たちがその後調べたり、学習段階でやっていきます。その出だしのスタートの学習問題の設定によって子供たちがいろんな多岐にわたった調べ活動をするのか、それともどこかに絞った形で学習を進めていくかというところに特徴がありますので、また具体的には記録員のほうから説明を申し上げます。</p>
<p>平川純哉 研究記録員</p>	<p>失礼します。 調査研究の中で上がった意見としては、こちらの資料であると、子育て支援ともう一つ高齢者福祉がたくさん挙がっているというのがわかりますので、せめて子育てや高齢者福祉に対して市はどのようにして願いをかなえているのだろうか、もう少し学習問題を広げたような学習問題にすれば、そして子育てのほうに関心が高い子は子育てを頑張るべくよく調べる、高齢者のほうに関心がある子は高齢者のグループで調べるような活動をすればいいんじゃないかというような意見が上がりました。 そのあたりが教育出版は少し学習問題の設定が広くしてありますので、いろんな関心をもった子に最後までカバーできるように工夫されているという、その違いが最も大きな違いだと思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>分かりました。 本文でメインに取り上げているのは子育てであるということはどの教科書も共通していると思います。その学習問題とか他の問題についても考えられる余地がどのくらいあるかという、そういう違いということですよ。</p>
<p>平川純哉 研究記録員</p>	<p>はい。</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>分かりました。</p> <p>あと、私が個人的に非常に興味をもって見たのは、子供の権利についてどう取り上げられているかなというふうと比較してみたんですけど、例えば子どもの権利条約がどう取り上げられているのかなというのを見たときに、まず東京書籍は索引に子どもの権利条約自体が載っていないし、中身にもあまり載っていない。教育出版は276、277頁に子どもの権利条約、児童の権利条約について載っているんですけど、ユニセフの活動の一環としてしか出ていない。日本文教出版は32、33頁ぐらいに出ている。日本文教出版だけが、日本の子供の皆さん自身が、今、子供の権利をもっているんだという文脈で出ているんですよ。だから子供の権利というのは、貧困とか内戦とか遠い世界の子供の虐げられた子供を守るためのものなんだという扱いが教育出版の扱いで、日本文教出版もその部分としては憲法とか基本的人権とかが流れで出ているんですけど、結局取り上げられているのはルワンダの子供ということで、東京書籍はそもそもないということで、どの教科書も、結局、今の日本の子供が子供の権利をもっているんだという子どもの権利条約とかに関係しているんだと、あなたの問題なんだという視点ではどこも取り上げていない、非常にこれは全部不満です。大変これは問題だと思っています。3社とも子供の権利に関する意識が低過ぎるというふうに思いますので、ぜひそこは次の教科書で改善していただきたいなと思っています。どれが一番ましですかと言われたら日本文教出版だと思いますけど、それでも非常に不満があります。</p> <p>それから、じゃあ、その中でどれがいいのと言われたときに、あえて言えば子供の権利の話とは別で、写真をカラーにしているという教育出版は、そこは非常に評価していいのかなと私は思いました。</p> <p>特に戦争の204頁からですよ。204頁からの日本の戦争のときの写真、今まで私たちが見ているのは白黒写真で、遠いどこかの世界の話だというふうに見えるんですけど、これがカラーで載っているというのは大変大きな意味があるんだろうというふうに思っています。</p> <p>特に212頁、213頁、その当時の小学生とか、女学生とか、自分たちと同じ子供たちが載っている戦時中の写真がカラーで載っているということは、それは自分たちと同じ子供たちがこういう状況にあったんだということを実感するために、白黒であるのとカラーであるのと全く迫力が違うと思います。その次の214頁もそうですね、疎開とか焼け跡を歩くような姿。人物、特に子供たちがカラーで載っているというのは大変効果的だというふうに思いますので、それだけを取っても教育出版は使ってもいいんじゃないかというぐらいの価値があるんじゃないのかなというふうに私は思いました。</p> <p>私の意見は以上です。</p> <p>他にどなたかご発言がありましたらお願いいたします。</p> <p>他になければ、では、「社会」は以上といたします。</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>続いて、「理科」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明いたします。</p>
<p>富田 裕 研究記録員</p>	<p>説明</p>

伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。
澤田伸一 事務局長	説明
伊藤友子 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	それでは、協議に入ります。ご意見・ご質問はありませんか。西山委員。
西山忠男 委員	<p>今ご説明があった振り子の記述ですけど、私はかなり疑問をもちました。というのはどういうことかと言うと、例えば啓林館の123頁、このところに振り子は常に一定の時間で往復しますと断定的に書いてあります。大日本図書も同じです。おもりは一定の時間で往復を繰り返しますと書いてあります。それからこれは東京書籍、これも振り子が振れるときは常に一定の時間で往復します。しかし、振り子の一往復する時間は振り子によって違いましたと書いてあるんですね。その往復する時間を変えるにはどうしたらいいんだろうという導入の仕方がこの3つの教科書に共通しています。教育出版もほぼ同じ展開なんですね。</p> <p>ところが学校図書を見てください。学校図書は8頁ですけど、ガリレオが、ランプが一往復する時間はいつでも同じようだと気づきましたと書いてあって、じゃ、それを確かめよう、だから仮説が提示されてそれを実験で確かめるという構成になっていますよね。そこから往復する時間を変えるにはどうしたらいいんだろうかという展開になっています。これが本来のサイエンスの在り方だと思います。そういう意味では、振り子に関しては学校図書が一番すばらしいと思います。これは振り子についての意見です。</p> <p>次に、もう一点ですけど、地学の記述に関してですが、地学は小学校と中学校でしか学ばない、ほとんど学ばないんですね。防災上非常に重要な科目ですから、この扱いはとても重要だと私は思っています。その扱いを比べてみると、一番優れていたのは教育出版でした。教育出版では、例えば火山の噴火の前と後とか、津波の前と後とか、そういう写真がたくさん並列して並べてあって、いかに災害がすごいものかというのを実感できるようになっていますし、地層の写真などもたくさん掲載されてとてもすばらしい内容になっています。また、熊本地震についても、3つ4つ写真があって、熊本の子どもたちにはとても印象的な構成になっていると思います。そういう意味で、私は教育出版を第1に推したいと。2番目に学校図書を推したいというところでございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>私の意見を申し上げます。</p> <p>まず、私が一番気になったのは、東京書籍のどの学年でもいいんですけど、登場人物が最初のページに出ていますけど、2頁、なんだパンダ先生の写真が出てきて、その後、リン、ソウ、ウタ、アイシャ、ケン、メアリー、ハルキという順番で、これが何でこういう順番なのかというのが非常に気になりました。つまり何でハルキ君が一番最後で、最初に日本人が並んで、次に外国人が並んでいて、最後に車椅子の子が並んでいるということで、この教科書をつくった人からすればこの序列、人間の序列は日本人、外国人、障害者という序列なんだというふうに思っているということで、これ</p>

<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>に何ら不自然な感覚をもたないということは大変問題だと私は思います。こういうのを自然に見えないカリキュラムとして子どもたちが学んでいくということは大いに人権上も、問題があると思いますし、現にこのハルキ君はほとんどのところにも出てきません。申し訳程度にちらちらと出てきますけど、この日本人の主な登場人物が話し合ったりしている場面に出てくることはほとんどありません。そういうものなんだと、そういう扱いなんだということですよ。ですから、この教科書をつくっている人の感覚は大変私は問題だと思いますし、このような差別的な教科書は使うべきでないとはっきり申し上げたい。</p> <p>それ以外の教科書については、そういう致命的な問題はないと思うんですが、特徴的なのは学校図書で、教科書の展示会の意見にもありましたけど、非常に写真がきれいなんですよ。どれも非常にセンスがよくてきれいなんですけど、写真が格好良過ぎて本文が頭に入ってこないというか、本文以外の情報量が多過ぎるんですよ。思わず写真に見とれてしまうんですけど、結局そのページで何を言いたいのか分からないというようなことで、もう少し情報量を絞っていったほうが分かりやすいんじゃないかというふうに私は思いました。ですから、写真がきれいなのは、きれいじゃないよりはいいことなんですけど、ちょっとどの部分に着目してほしいのか、何を伝えたいのかが分かりにくい。</p> <p>それから教育出版は、西山委員が一番評価されるところで、ただ先ほどの説明にもありました実験、集気びんの話から入ってなかなか興味をもてないというところもあったりして、ちょっとこれは単元によるんですけど、少し入りが難しいかなというか、興味をもつのは難しいかなといったところはありました。</p> <p>大日本図書と啓林館、どっちなのかなというのは、私の個人的な感想でしたけど、版が大きくて見やすいという意味では、学校図書のほうが個人的には見やすいかなというふうに思ったところです。ただ内容的なものというよりは、やっぱり外見的に見て一番分かりやすいかなということですよ。個人の感想言っちゃいましたけど。</p> <p>他にありますか。小屋松委員、どうぞ。</p> <p>これも学習の導入の部分になりますけど、進め方、学び方、こちら辺を子供たちが最初に見たときにどこが分かりやすいかなという観点から見ていったときに、一番丁寧に書いてあるのは教育出版かなというふうに思いました。</p> <p>それと、あとは大日本図書、これも非常に分かりやすいなという印象を持ちました。それから大日本図書でいきますと、もう一つは、「ここに注目」というのがありまして、ここを見ることによって課題が提起されていくと、非常に分かりやすいなという印象をもちました。</p> <p>それから、これはちょっと私個人の意見になりますけど、信州教育出版社の教科書の巻末に必ず人物が出てきますよね。例えば6年生でいきますと187頁、不思議、なぜを追い求めた科学者ということで、それぞれの巻末に一人ずつ載せてあります。これはみんな恐らく信州、ご当地の出身の方々だろうと思うんですけど、こんなふうに熊本の方が載っていたらすごいただろうなというふうに思うんですね。なかなか全国版の教科書にそれを載せるというのは難しいかもしれませんが、例えばQRコードで熊本に入っていて、熊本の科学者としてこういう人がいたということが子どもたち</p>
-----------------	---

	<p>に分かれ、また理科に対する興味というのも少し違ったものになりはしないかという感想をもちました。</p> <p>以上です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>承知しました。他にご意見がありましたらお願いします。</p> <p>澤委員。</p>
<p>澤栄美 委員</p>	<p>理科と言え、実験によるいろんな事故とかが一番心配なところかなと思うんですけど、例えば大日本図書の方では、理科の決まりとか、後ろのほうに載っていたりするんですけど、全部私もよく見れていないんですが、そういったところの扱いは教科書によって違うところがあるのでしょうか。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>お願いします。</p>
<p>富田裕 研究記録員</p>	<p>理科の安全面についてです。3つ見ております。1つが理科の扱い方をきちっと載せてあるか。それからあとは器具の使い方をきちんと載せてあるか。それから薬品について注意がちゃんとしてあるかというところを見えています。</p> <p>理科の使い方については、実は全社、ページを取って掲載されています。信州教育出版社は巻頭のほうに載せてあります。啓林館は中盤に載せてあります。他の教科書は全部巻末に理科の使い方を必ず載せるようにしてあります。</p> <p>それから器具の使い方についても、信州教育出版と啓林館は单元ごとに器具の使い方を載せてあります。後の教科書は巻末にこれもまとめてあります。</p> <p>それから薬品の使い方については、危険マークとか、それから注意マークというのがきちんと載せてあるかどうかを確認しましたが、これは全社共通してきちんとその表示、赤い表示、燃えるようなマークだったり、注意という大きなマークだったりがつけてありました。</p> <p>そういうところで安全に関しては、各社きちんと配慮してあったところでは、出川委員、お願いします。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>澤委員。</p>
<p>澤栄美 委員</p>	<p>どの教科書も同じぐらいのレベルでということですね。分かりました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>では、出川委員、お願いします。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>多くの教科書で、実験と結果が別の見開きで見えないようにしてあったと思いますが、そういうのが子どもの関心の実験をするときの意欲に関わると思うので、実験と結果がすぐに見れないような工夫がしてある教科書がいいというふうに思ったのと、また、デジタルコンテンツを使いながら長さを変えたりすることができるというような工夫がしてあるという教科書もあったので、そういうところは非常にいいのではないかなというふうに思いました。</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>ありがとうございます。今の点は、先ほどの発表の中にもありましたが、実験の最初、結果が同じところに出てくるという、これはどうなんでしょうね、実際に。気になったらページをめくるような気もするんですけど、同じところに載っているのと次のページに載っているのどこまで違う、実際にどこまで違うんでしょうか。</p>
<p>深川慎也 研究員代表</p>	<p>実際どこまで違うか、指導の中で、ですが、実は理科の実験するときは、予想を立てるときは教科書等を広げて、自分でノートなり、タブレットなりに自分の予想を書き、いざ実験となると教科書やノートは全部実験機の下に片づけて安全に実験をするというところがありますので、予想の時は結果は見えないというのは前提であった方が指導者としてはいいかと、実際に私も理科を指導してきて、そういうふうに思っています。実験中は意外と見ることは少ないというところが今現場の実態としてあると思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>実験中は閉じているからどっちでも同じということなんだろうけど、ちゃんと予習してくる子にとっては最後まで見ているんじゃないですか、元から。</p>
<p>深川慎也 研究員代表</p>	<p>もちろん好きな子は先に読みますし、いろんなところで先に学習した子どももいると思います。ですから、このページがその中にあるかないかというところがどれだけ重要かというのは研究員の中で話題には上がっておりませんが、やはりそこを次のページにきちんとするという姿勢が教科書自体のつくり、子どもの主体性、主体的な学びをきちんと意識しているということの一つの表れではあると、研究員の方では判断しております。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>分かりました。実際ページをめくらないでと言われたらめくらないとか、そういうものではないけど、種明かしをそのページに書いちゃうセンスと次のページに回すセンスの違いだという、そのぐらいのことですかね。分かりました。 他にないですか。よろしいですか。では、他にご意見ないようなので、「理科」は以上といたします。</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>続きまして、「音楽」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。</p>
<p>林秀一 研究記録員</p>	<p>説明</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。</p>
<p>澤田伸一 事務局長</p>	<p>説明</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議に入ります。ご意見・ご質問はありませんか。 西山委員。</p>

西山忠男 委員	<p>見比べてそれほど大きな差があるようには見えませんでした。どちらにもよいところがあると思いました。音楽という教科は、教科書よりも指導者の力量によって教育効果が大きく変わると思うのですね。そういう意味では先生にとって学びになる教科書、先生にとって使いやすい教科書という観点で見たらどうでしょうか、教えてください。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>お願いします。</p>
杉水 修 研究員代表	<p>教育出版のほうがどちらかというと、指導者側の裁量に委ねられているウェイトが大きいかなと思います。あまり詳しく学習内容や活動についての説明がないので、指導者側としては、自分がこういう授業をつくりたいという思いがしっかり強くあるのであれば教育出版さんのほうが使いやすいのかなというふうに思います。</p> <p>対しまして、教育芸術社のほうを申しますと、学習内容や学習活動の流れというのがとても詳しく書かれておりますので、あまり音楽が得意じゃない先生方とか、音楽専科ではない担任の先生方にとっては、こんな流れでこんな力を付けるといいのだなというのが明確に示されているという意味では、教育芸術社のほうが優れているかなと。</p> <p>ちなみに熊本市内の小学校92校中で音楽専科の数は、私が調べましたところ53人ぐらいということで、半分よりもちょっと多い状況です。県内の他の都市と比べると比較的多いのですが、大きな学校であれば専科が授業するというのは高学年だけだったりしますので、意外と半分以上の担任の先生方が音楽の授業をするということ考えた場合、教育芸術社のように細かく流れを書かれているほうが使いやすいのではないかなというふうに考えます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>よろしいですか。澤委員。</p>
澤栄美 委員	<p>私は音楽があまり分からないから今の説明でそうだなと思いましたけど、教育芸術社がすごく分かりやすいなと思いました。それ以外に著作権が取り扱ってあります。今、いろんなことを簡単にコピーしたり、人のものを勝手にというようなところも子供たちの世界観ができていくと思うのですよね。ですから、そういったものをきちっと扱ってあるということと、それから5年生の教科書の一番最初のところに音とテクノロジーということで、今の子供の現状を考えると、例えばTikTokとか、自分たちでいろんなものをつくって流したりとか、既にしているような子供たちが音楽に親しむ、そういったものも扱っているということは教育芸術社なのかなと。</p> <p>表紙を見てみても1年生から6年生までの表紙が広がる感じで恐らく考えてあるのかなと、それが逆に表れているなという感じもしたので、私はやはり教育芸術社のほうが個人的にはいいなと思いました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>他にいかがですか。小屋松委員、どうぞ。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>さっき観点7のご説明があったときに、教育出版のほうは付箋9でしたかね。それから教育芸術社のほうは付箋11だったのですが、ここで両方もということになっていきますけど、音楽の授業という中で見たときに</p>

	<p>本当にこれがいいかなという気がちょっといたしました。何で両方ともなのかというのをもう少し詳しく聞きたいなというのが一つ。</p> <p>それから教育出版のほうは、この付箋9の説明を受けたときにいろんなお祭りが出てきますけど、ここにみんなの住んでいるところにはどんなお祭りがあるのかな、どんな音が聞こえてくるかなと書いてある。ここのいっぱい出ているお祭りの音はどんな音だろうと、私は興味がありますけど、それを聞くすべがあるのかなというふうに思いました。</p> <p>総じてこれを見ても、教育出版のほうはデジタルコンテンツが少ないという、つまり音がなかなか聞けないという感じがいたしました。</p> <p>それともう一点は、さっき澤委員もおっしゃいましたけど、社会的つながりというところの著作権の記載というのは、これは芸術社、載せたというのはすごいなと思いました。このコンテンツの差、ここはこの両者の相違点かと思うのですが、何かご意見はございますか。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>今いくつかありましたけど、それぞれよろしいですか。</p>
<p>杉水修 研究員代表</p>	<p>まず初めに、どうして2社がなのかという点についてお答えいたします。</p> <p>まず、教育出版のほうですけど、教育出版の特徴としては、先ほど説明のほうでも申し上げましたとおり、4年生から日本の音楽と世界の諸民族の音楽が並行して掲載されていて、4年生のうちからずっと国際的な視点が書き込まれるように工夫されているという特徴が見られます。</p> <p>一方、教育芸術社にしましては、3年生から5年生までは、どちらかというと日本の音楽のみで、世界各国の音楽というよりは日本の音楽をしっかりと学ぶというような構成になっておりまして、6年生で初めて世界の民族音楽へとつながるようになってきている。アプローチの仕方が両者違うのだけど、とてもそれに力を入れて子供たちに身に付けさせようという視点はどちらの出版社からも見られるというところで、どちらもとさせていただきます。</p> <p>それから音源に関しましては、両者とも鑑賞のCDだとか、いろんなデジタルコンテンツは用意されていると思いますが、先ほどご質問にありましたデジタルコンテンツの差については、今から説明させていただきます。</p> <p>説明の資料の中にあっただと思うのですが、二次元コードに関する内容としましては、教育出版と教育芸術社の二次元コードでのコンテンツの数の差を調べましたところ、教育出版のほうは115、教育芸術社のほうは201ということで、数としても倍ぐらいの差があるというところでございます。</p>
<p>林秀一 研究記録員</p>	<p>コンテンツの内容については、今、画面に出しておりますが、教育出版のほうと教育芸術社を比べますとどちらとも音源がついています。それから音源は教育出版のほうが実際の楽器を使った音源で、教育芸術社のほうは電子音です。</p> <p>鑑賞曲ですが教育出版は、楽譜を実際に視覚的に捉えながら見ることができます。あと音楽づくりについては大分大きな差があって、教育芸術社のほうは、速度や音色の設定とか、実際に作って再生するというような機能がついています。そこのところが大きな違いかなと感じました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>よろしいですか。出川委員。</p>

<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>私は、教育芸術社のほうは後ろのほうに振り返りがあって、自分の学んだこととかを後から見返したり、よく分からなかったことを理解したりするのに非常にまとめられているなというふうに思いました。</p> <p>一つ質問ですが、先ほどデジタルコンテンツの中の音楽づくりのところのご説明があったかと思えますけど、自分で音楽をつくるというようなところの工夫というのはそれぞれどんなふうになっているか教えてください。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>お願いします。</p>
<p>杉水修 研究員代表</p>	<p>先ほど説明の中でも申し上げましたが、教育出版のほう、付箋7ですけど、それぞれ学年で、いろんな学年で音楽づくりをやります。3年生を例にして挙げますと、音の響きや組合せを楽しんでいくということですけど、教育出版のほうは、この音の強さとか大きさ、そういったものが図形化されていて分かりやすく視覚的に大きくしていくのだな、小さくしていくのだなと、そういうふうにリズムも視覚的に捉えやすいというようなやり方で、楽譜が読める人も、実際にこのカードを使って視覚的に捉えて友達を話し合いながら、こうやってみよう、ああやってみようというような音楽づくりができるという工夫がされています。</p> <p>教育芸術社のほうは、付箋の9番になるのですが、こちらが実際どきどきする音楽でありますけど、テーマを決めて、例えばわくわくするとかでもいいと思うのですが、楽しい音楽とか、グループでお題を決めて、このお題に合うようにみんなで工夫しようということで、まずタイトルを決めたり、音楽づくりを実際にやっていくところから会話が生まれて、みんなで試行錯誤しながら、みんなと一緒に音楽をつくっていきこうというような、これをデジタルコンテンツで使いながらやっていくというような工夫がなされていました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>出川委員。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>例えば教育出版の5年生で、20、21頁に自分で旋律をつくらうみたいな工夫とかも見つけられて、あと教育芸術社のほうは6年生のところ「さくらさくら」の音階で旋律づくりとかいうのがばらばらにある感じが、私が見つけられなかったのですが、そういったみんなで先ほどは音をつくっていきましょうというところだったと思いますが、自分で曲をつくるというか、合わせてつくるみたいなところというのはどういう工夫があるのか教えてください。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>お願いします。</p>
<p>杉水 修 研究員代表</p>	<p>学年ごとに使う音が低学年だったら少ない音の中で選んでつくるだとか、学年の発達段階に応じてだんだんと複雑になるというふうな構成には、どちらのほうの出版社のもそういった作りにはなっていると思います。</p> <p>先ほど申しました大きな違いというところは、デジタルコンテンツの中の音楽づくりに関して、教育出版社のほうは比較的ワークシートなどアナログ的なものが多かったのに対して、教育芸術社のほうは、速度や音色の</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>設定とか、再生が可能で実際に聴きながらつくっていくというような特徴が見られたところに少し差があるかなというふう感じたところです。</p> <p>出川委員、よろしいですか。他にありますか。</p> <p>私から質問、よろしいですか。先ほど説明のときにもありましたが、この教育出版のほうの振り返り、一番最後のほうのページで例えば6年生でいくと付箋2のところの78頁に、音楽のもと、まとめというのが書いてあって、この図が四角とか丸とか位置関係とかがどういう意味を持っているのか、私は専門じゃないのでよく分からなかったのですが、これはどういう図なのか。説明がもしあればお願いします。</p>
<p>杉水 修 研究員代表</p>	<p>音楽をつくり出している要素として、音色や強弱とか、速度とか、リズム、旋律、フレーズ、拍というのが密接に絡み合っって一つの音楽がつけられているのをこの図で表しているのではないかなというふうに私たちは解釈したのですが、先ほどの説明でも申しましたように、今、教育長がおっしゃいましたように、子供たちにこの図が理解できるのかと考えたときに、ちょっと難しいのではないかなというふうに考えました。先ほど説明したとおりで、小学生にとって分かりづらいのではないかなというふうに私たちとしても考えたところです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>分かりづらいということなのか、つまり旋律というのは四角でこの位置にあって、その右上に丸でリズムというのがあって、その右下に四角で拍というのが書いてある。それはそれぞれこの場所にこの形でこの大きさで載っていることに意味があるのだけど、それはなかなか分かりづらいよねということなのか、そもそもそれはそこに意味があるのかという、そこが聞きたいのですが。</p>
<p>杉水 修 研究員代表</p>	<p>その辺をすごく考えられてつけられているのだろうとは思いますが、曲によってとか、いろんな状況によって旋律、リズム、拍やフレーズの関わり方というのは必ずしも一律ではないと思うので、正直なところ、私どももこの表していることがどうなのかなというのが分からないという点もあります。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>そこら辺が聞きたくて、いやいや、音楽関係者が見たらそんなのこれは当たり前だけど、子供には分かりにくいよねという話ではないわけですね。これはどういうことなのかなということだということですね。分かりました。そういうことでした。</p> <p>あともう一点は、教育芸術社の教科書は、一番最後のページに必ず「君が代」が載っていますよね。今までの音楽の教科書も大体最後のページに「君が代」が載っていることが多いのですが、教育出版は最後のページじゃなくて、最後より微妙に前で、何となく中途半端な位置に「君が代」が載っていますけど、これは何か意味があるのかなと思ったんですけど、そこはどうなのでしょう。</p>
<p>杉水 修 研究員代表</p>	<p>確かに「君が代」は私たちのイメージとしても最後のページというイメージではございましたが、すみません、そこはあまり深く考えていません</p>

	<p>でした。君が代の後に数ページあるということについては、私どもでもそこまでは深くは考えておりません。すみません。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>分かりました。 特にここに載っていることに何か意味があるのかと言われたら、それはよく分からないということですね。ありがとうございました。 他にご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。 特にないですか。 ないので、以上で「音楽」について終了します。</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>続きまして、「保健」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。</p>
<p>村上公英 研究記録員</p>	<p>説明</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。</p>
<p>澤田伸一 事務局長</p>	<p>説明</p>
<p>伊藤友子 選定委員長</p>	<p>只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>では、委員の皆様からご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。西山委員、どうぞ。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>心の発達のところでは、私はやはりいじめについて記述することが大事だと思うんですけど、それがはっきりあったのは学研だけですね。5・6年生の23頁に1頁を使って「これっていじめ」という、こういうことがいじめに該当するというのをきちんと書いてあります。もちろんいじめは道徳でも扱うとは思んですけど、いろんな教科で扱っていくことが大事だと思うので、この点は学研を高く評価したいと思います。 大修館書店には相手を傷つける言葉、光文書院には自分と人との距離感ということで多少関連する内容がありますけど、あまりはっきりと書いていないというのが不満ですね。東京書籍、大日本図書、文教社にはいじめの対応は記述が見つかりませんでした。 2番目のポイントのところですけど、LGBTに関する記述がはっきりあったのは大日本図書だけでした。これは、3・4年生の39頁にありました。光文書院も33頁に体の性と心の性が違うというような記述がありました。これも実際にLGBTの人はものすごく悩んでいることだというふうには伺っているので、やはり教科書にこういう記述があるとないとは全然違うと思うんです。自分が特殊なんじゃないんだと安心すると思うんですね。他の教科書にないのは残念ですけど、将来的には全ての教科書でいじめと、それからLGBTに関する記述が含まれることを期待したいと思っています。 東京書籍については、先ほど澤田所長が紹介された学校側の意見の中にLGBTに関する配慮も感じられるという意見が述べられましたけど、どこの部分かなと、私分からなかったんですけど、分かりますかね。</p>

遠藤教育長	いかがでしょうか。
澤田伸一 所長	少々お時間をいただいてよろしいでしょうか。
遠藤洋路 教育長	それは調べていただいて、他のご質問、ご意見が委員から。 小屋松委員、どうぞ。
小屋松徹彦 委員	<p>観点2の部分で、思春期に表れる変化のところですけど、これは体の変化とともに心の変化もあるというところで、その記述を見てみたんですけど、心の変化について結構丁寧に説明が加えられていたのが2社、私が見たところでは、文教社さんと、それから東京書籍が詳しく触られているかなというふうに思いました。</p> <p>中でも東京書籍のほうは、観点2の3のところ、37頁に思春期には心にも変化が表れるというところですけど、特に資料として性と自分らしさという、38頁に記述が載っています。さらに性と自分らしさの中でQRコードに入ってみるともっと詳しく中身の説明があり、これは非常に丁寧な記述になっているかなと思いましたが、観点2の3については、私はこの文教社も でいいんじゃないかなと思うんですが、そこが になっていたの で、その理由とか見解を聞かせていただければなと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	今の点、文教社が でもいいんじゃないかということですけど、いかがですか。
村上公英 研究記録員	<p>では、私のほうからお答えいたします。</p> <p>プレゼンのほうで先ほど言いました点で、文教社はおっしゃるとおり、しっかり考えられた内容でまとめられていました。見方、考え方を働かせていくというところで、1時間の学習のまとめの部分でもう少し出てきた言葉をまとめるような工夫があるとさらにいいのかなという判断でした。各社、デジタルコンテンツについて深い学びにつながるような説明がなされていたんですけど、文教社もデジタルコンテンツはあるんですが、内容的に少し昔の映像という感じがして、さらにブラッシュアップした方がいいのかなというような内容でしたので、その点からまとめて というふうにしております。よろしいでしょうか。</p>
遠藤洋路 教育長	先ほどの件で澤田所長、お願いします。
澤田伸一 事務局長	<p>西山委員のご質問にお答えいたします。</p> <p>東京書籍の3・4年生、付箋の2の3が37頁、黄色い付箋2の3に載っている37頁のちょうど真ん中に、思春期には心にも変化が表れ、異性など他の人のことが気になったり、好きになったりすることがある一方、反発し合うこともありますという、そういう表現のところが意見の中ではLGBTへの配慮が見られるところがあったというふうに意見では書いてあります。</p>
遠藤洋路 教育長	西山委員。
西山忠男 委員	これぐらいの記述ではちょっとLGBTに対する配慮とまでは言えないと思

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>うんですけど、もうちょっとはっきり書いてほしいですね。ありがとうございました。</p> <p>さっき小屋松委員がおっしゃった37頁の次の38頁の性と自分らしさですか、体の性以外にもいろいろな性の不一致がありますということで、心の性とか、好きになる性とか、表現したい性とか、いろんな体の性以外にもありますよみたいな話書かれている、この部分のことなのかなというふうに思います。</p> <p>異性などのなどという二文字があるからというよりは、こっちのほうがより詳しい説明かなと。</p> <p>他にありますか。</p> <p>出川委員。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>私は、ストレスのところの記述があるかを探したところ、大修館書店のほうで21頁に見つけれられたんですが、ストレスの感じ方がいろいろあると、自分の感じるストレスといろんな方が感じるストレスみたいな、他者に対しても理解を示すようなそういう記述があったりするんですね。他のところは自分の悩みとか不安に対するところが中心だったんですが、こういうふうな記述が他のところにあるのかどうかということが一点お聞きしたいのと、あともう一点は、デジタルコンテンツ、さっきご説明があったと思いますが、少し詳しく、こういう保健とかの学びはそういうデジタルコンテンツがすごく使われるんじゃないかなというふうに思いますので、デジタルコンテンツの特徴、各教科書の特徴みたいなものを教えていただきたいです。</p>
<p>益永一幸 研究員代表</p>	<p>不安や悩みへの対処の仕方というのは、やはり健康課題を何かあったときに解決する一つの材料になりますので、それはどの会社も取り扱ってはありました。その中で自分の気持ちを上手に伝えるなど、こんな呼吸法とか軽い運動をするとその解消につながりますよ、それと相談窓口がありますよというところが全てそろっているところが東京書籍はあったかなというふうに思っております。</p> <p>それと、QRコンテンツですけど、ちょっと特徴的なところがあったのは、東京書籍と大修館書店と学研で、そのQRコードを読み込むと直接そこに動画とか、いろんな資料とかが掲載できるようになっておりました。それと大日本図書と文教社と光文書院のほうはQRコードを読み取るとメニュー画面に行って、そこから幾つか単元を選んで、そしてその場所に行くという3段階ぐらいの段階を経てそこに行き着くというような特徴がありましたので、学びやすさの点では、そこは東京書籍と大修館書店と学研のほうで分かりやすかったかなというふうに感じました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>出川委員。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>デジタルコンテンツのところは、ずいぶん数が違っていたように思ったんですけど、その辺についてはどうなんでしょうか。特徴を説明していただいたんですけど、他に何か違いはありましたか。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>もう一回それを、数とか。</p>

<p>村上公英 研究記録員</p>	<p>補足させていただきます。</p> <p>二次元コードの総コンテンツ数については、多い会社とそうではない会社というのは見受けられました。内容としては、各社、趣向を凝らしたものの、考えてつくられたものが多かったかなというふうに感じております。</p> <p>その中でもということで、もう一つ資料を出させていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>対話的な学びという部分で一つの要素として調べたのが、対話につながるようなデジタルコンテンツがどのように工夫されているかというところを拾い出してみました。</p> <p>東京書籍については、健康でいるために必要なことを考えるための思考ツールとして、今出しているようなものを下から選んで、一日の生活の仕方と身の回りの環境について関係あるというものを分けていくというふうなツールがありました。また、学校の危険を探すシミュレーションもありました。</p> <p>大日本図書については、身長を学年ごとに打ち込むと1年で伸びた長さ、このようにグラフがすぐ出るようなコンテンツがありました。</p> <p>大修館書店について、まだ動画が見られないものがありました。シミュレーションに関するものも情報として記載されていたのですが、規制がかかって見られなかったというところは残念な点でした。</p> <p>文教社は、エクセルファイルで作成された身長と伸びを計算するファイルがダウンロードされました。</p> <p>光文書院については、せきや会話で飛沫が広がる実験映像など、実験映像が充実していたというふうには思っています。</p> <p>学研については、空気の動きが分かる実験映像と、先ほどと似ているんですが、身長を打ち込むと自動でグラフなどが出るような、今出しているようなものがありました。</p> <p>デジタルコンテンツについて、以上のように特徴的なものを見つけることができました。</p> <p>以上です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>では、他にご発言がある方。 澤委員。</p>
<p>澤栄美 委員</p>	<p>3・4年生の教科書で、初めて小学3年生になって保健の学習をします。何で保健の学習をするかというのがそれぞれ取り上げてはあるんですけど、健康、健康と言いながら健康のことについて学ぶ機会はないんですよ、健康は何だろうと。それが取り上げられているのが学研、前から学研はそういうふうに取り上げてあるんですけど、その辺のところを改めてまず考えるという点では、学研はいいなというふうにひとつ思いました。</p> <p>それから人権のところ、たしか東京書籍と大日本図書と大修館書店がなっていたと思うんですけど、その中で登場人物が出てくるもので、東京書籍の3頁のところ、先ほどの社会だったですかね。教育長が車椅子の子供のことについてお話しされていたけど、そういった子供を含めて一緒に学習しましょうという、そして肌の色が違うこととかも出てきているということと、それから保健に関わる職種の方たちが入ってきているというのが、それが大修館のほうでも保健に関わる人たちが出てくる、</p>

	<p>そういったところを見ておられるのかなというふうに思いました。</p> <p>さっき LGBTQ のことについて話題が上がっていましたが、大日本図書に関しては、34 頁のところは心の変化は様々で、気になる人ができることあるいは同性の人が気になることもあるとか、それから 39 頁、真ん中辺り、様々な性のところ、生まれたときの体の性と今自分が思っている性は違うこともありますとか、そういった細かい配慮がされているところで人権のところが ということになったのかなというふうに思っています。</p> <p>それと 5・6 年生の教科書なんですけど、東京書籍だけが心の発達のところ、解説ということで心の働きというのが感情・思考・社会性ですと簡単にまとめてあります。他のところは感情がどういうふうにか小さいときからだんだん発達していくかだとか、社会性がどんなふうになっていくかとか、分けて発達の仕方を書いてあるんですけど、東京書籍だけがそういう書き方じゃないというところは、学習指導要領の観点の 1 のところになると思うんですけど、学習指導要領的にはそこは大丈夫なのかということをお聞きしたいと思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>いかがですか。</p>
<p>澤栄美 委員</p>	<p>それと、さっき私言い忘れたかもしれませんが、感心したのは、どの教科書も 3・4 年生なんですけど、初経とか精通のグラフが以前は男は青、女は赤、必ずそうだったのが、色がいろいろ工夫してあるなというふうに感じました。</p> <p>以上です。</p>
<p>益永一幸 研究員代表</p>	<p>学習指導要領のところ、この 2 つのところ、社会性、思考力のあと 1 つが感情ですかね。その 3 つのことについて、分かりやすくどの会社も図や表を示して書かれてありました。</p> <p>東京書籍のほうは、その表はなかったというところでは、そこは子供たちにとっても難しいところにはなるのかなというふうに思いました。言葉では書かれていましたので、学習指導要領でその部分を学ぶということに関しては、一応はクリアはしておりますが、学びやすさというところではそこら辺はどうかなという感じは受けました。</p> <p>以上です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>澤委員、よろしかったですか。</p> <p>西山委員、どうぞ。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>今の澤委員のご指摘なんですけど、LGBT は大日本図書が扱っていると先ほど私が申しあげましたが、深い学びが なんですね。 と澤委員おっしゃったけど、 ですね。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>澤委員がおっしゃったのは観点 8 の人権のところ。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>観点 8 の人権、分かりました。</p> <p>私は深い学びも でいいんじゃないかなと、大日本図書はと思ったんですけど。</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>他にご意見はありますか。 どうぞ、澤委員。</p>
<p>澤栄美 委員</p>	<p>5・6年の教科書の中の文教社だけが、多分私の見落としでなければ、災害のことについて発展で掲載してあるんですけど、それがなかったかなというのをちょっと思いました。 というのは、このけがの防止のところというのは5時間割り当てになっているんですけど、そこを入れるとなかなか難しかったりするんですね、授業の構成として。だけど、熊本は災害にも遭っていますし、必ずそのところは発展であってもどこかの前の時間に組み込むとか、いろんな工夫をして絶対取り扱うべきだろうなと思ったので、そこが私が見落としでなければ文教社には災害がなかったというのはちょっと残念かなと思いました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>今の点はいかがでしょうか。</p>
<p>益永一幸 研究員代表</p>	<p>そのとおりだと思います。ただ文教社には自助・共助・公助という文言がそこで大きく取り上げられており、他の会社にはなかったところかなというふうに思います。現代の課題として、熊本県では特に自然災害という部分では、自分の身を守っていくという、自分の命は自分で守るという、そういった行動が取れることは保健の教科書のほうでも少し取り扱っていくところではあるかというふうに思っております。 ありがとうございます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>他になれば、私からも質問をいいですか、意見ですけど。 まず、さっき澤委員からもありましたけど、思春期になったときの変化というのは、東京書籍は何となくその辺が大ざっぱ過ぎるなというのが感想です。 逆に文教社ですかね。5・6年生の4頁、5頁で、心の発達ということで、赤ちゃんの頃から3・4歳の頃、それから3・4年生の頃、5・6年生の頃と心が発達するみたいに書いてあるんですけど、これは逆に細か過ぎるというか、3・4年生と5・6年生でこんなにきっちり分かれるものかなというか、人によってそこは違うんじゃないのかというふうに思います。大体他のところは5歳のときと5年生のときを比較してある。そういう比較だったら分かるんですけど、3・4年生はこう、5・6年生はこうとここまできっちり書くのもどうなのかなと、実際に現実には違うんじゃないかなというふうに少し違和感がありました。 それからこれは澤委員の意見というか、聞きたいなと思うんですけど、例えば東京書籍でいうと、さっきから話題にはなっている思春期のところで、例えば3・4年生の37頁、思春期になって次のように悩んでいる友達がいたとき、その人が安心できるような言葉を学習したことを基に考えましょうと書いてある。この頃、急に声が低くなって声を出すことが恥ずかしいんだということとか、友達は月経が始まったのに私はまだなので大丈夫かなと。これは男の子だったら女の子に月経がまだなんだけどという女の子にどうアドバイスするかと非常に難しいというか、しにくいと思うし、女の子もクラスメイトの男の子から月経が始まらないんだけどということにアドバイスを本当にしてほしいと思うのかというのと、そんなことないよ</p>

<p>澤栄美 委員</p>	<p>うな気がするんですけど、これは異性であってもこういうアドバイスを考えてすることが望ましいという考え方なんですかね。現実どうなんですか。</p> <p>究極的には学びを深めたら、どっちにも答えられることがいいと思います。ここで一番ポイントになるのは個人差というところなんですね。思春期に表れる変化だけじゃなくて、身長とか体重が人によって違うという個人差という言葉がキーポイントなんですよ。だから男女の体について淡々と学ぶことは大切です。思い出していただくと分かると思うんですけど、以前は3・4年生では保健もやってなかったし、二次性徴のことと言えば女子の月経を女子だけが学ぶというようなことだったんです。男女が共習するというところに大きな意味があるので、考えるという点では個人差というところがあるから大丈夫なんじゃないのという答えができればいいというふうに思います。究極はそうだと思うんですけど、クラスの実態によって、一般的にはそういう男女別で考えるほうが授業としてはやりやすいのかなと判断します。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>大日本図書はその点自分にどうアドバイス、自分にどういうことを聞きますかみたいな感じになっていて、そっちのほうが考えやすいのかなというふうには思うんですよ。クラスの女の子からそんな精通についてアドバイスされたくない男の子のほうが多いような気がするんですよ、正直言えばですよ。</p> <p>そういう意味で東京書籍と学研は、女の子の月経についてどう声をかけますかみたいな問いかけなので、ちょっと正直男の子と、女の子としても周りの女の子がどう本当に声をかけられたいのかどうかというところはあるのでしょうけど、現実とどうなのかなという、その2社が思いました。</p> <p>他の会社はもう少しそれをぼやかすという言い方もあれなんですけど、他の場面でも、声のかけ方が工夫できるような書き方になっているし、今言っている大日本図書は自分にどう声をかけますかということなので、それが一番違和感がないかなというふうに、私としては思いました。</p> <p>文教社はたしか自分にアドバイスしている、その2社ですね。大日本図書と文教社はそうだったかなと思いますけど、それ以外はちょっと、正直自分では別にそんなクラスメイトからそんなことについてアドバイスされたくないなというのが本音でした。</p> <p>他にご意見、ご質問はないですか。特にありませんか。 特になければ、保健は以上にします。</p> <p>以上で本日の協議を終了します。 (外国語の協議は、第7回臨時教育委員会に変更)</p>